



コンクリート鋪裝版の解法 (三)

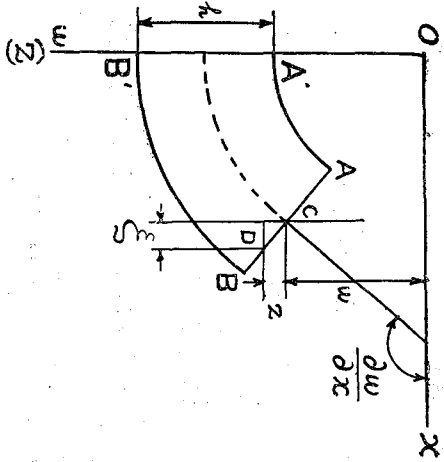
原 口 忠 次 郎

4. 彈床上の平版の一般方程式

普通の平版即ち四邊にて支持された版でさへ仲々その解法は六ヶ敷いものであるが、彈床上の平版の解法はより面倒になつて来るのは當然である。彈床上の枅でさへも計算は煩雜だが平版となれば一層面倒となつて果して實際上に適するかさへ疑はれる位である。然しコンクリート鋪裝版の發達に連れ、この問題も相當重要な役割となるのであつて、この問題が解決されない限り鋪裝版の厚さの決定の如きも、その根據が甚だ薄弱となつて来ることは緒言に述べた通りである。

扱て彈床上の平版方程式は普通の平版の方程式と少し趣きを異にして居る。今其大略を記述して見やう。

平版の厚さが邊の長さに比し小さくて、その平版の曲りが小さい時にはその方程式は割合に簡單となつて来る。



第一圖

今第一圖の \$AABB\$ を平板の一部とし \$AB\$ 断面が圖の如く曲りを生じたときのその断面内の點 \$D\$ の變位を、\$x\$ 軸の方向を \$\xi\$ とし \$y\$ 軸（紙面に直角なる方向とす）の方向を \$\eta\$ とすれば次の關係式が成立つ。

$$\xi = z \tan\left(\pi - \frac{\partial w}{\partial x}\right) = -z \tan \frac{\partial w}{\partial x} \quad \div \quad -z \frac{\partial w}{\partial x} \quad \dots\dots(1)$$

同様に $\eta = -z \frac{\partial w}{\partial y}$

又 \$x, y\$ 軸方向の伸びを \$\epsilon_x, \epsilon_y\$ とし、且つ \$r_{xy}\$ を之等の軸に沿ふた面に於ける伸びとすれば \$\xi, \eta\$ との間には次の關係式が成り立つ。

$$\left. \begin{aligned} \epsilon_x &= \frac{\partial \xi}{\partial x} = -z \frac{\partial^2 w}{\partial x^2}, & \epsilon_y &= \frac{\partial \eta}{\partial y} = -z \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} \\ r_{xy} &= \frac{\partial \xi}{\partial y} + \frac{\partial \eta}{\partial x} = -2z \frac{\partial^2 w}{\partial x \partial y} \end{aligned} \right\} \dots\dots(2)$$

尚この外に \$\sigma_z\$ 即ち平板の中央面に垂直なる應力が存在するも \$\sigma_x, \sigma_y\$ 及び \$r_{xy}\$ に比較すると小さいから之は省略する。即ち \$\sigma_z = 0\$ とすると

$$\left. \begin{aligned} \sigma_x &= \frac{E}{1-\nu^2} (\epsilon_x + \nu \epsilon_y) = -\frac{Ez}{1-\nu^2} \left(\frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + \nu \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} \right) \\ \sigma_y &= \frac{E}{1-\nu^2} (\epsilon_y + \nu \epsilon_x) = -\frac{Ez}{1-\nu^2} \left(\frac{\partial^2 w}{\partial y^2} + \nu \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} \right) \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots(3)$$

又剪断力 (Shearing Stress) は次の関係がある。

$$\tau_{xy} = G r_{xy} = -2Gz \frac{\partial w}{\partial x \partial y}$$

E = 弾性率 (Young's modulus)

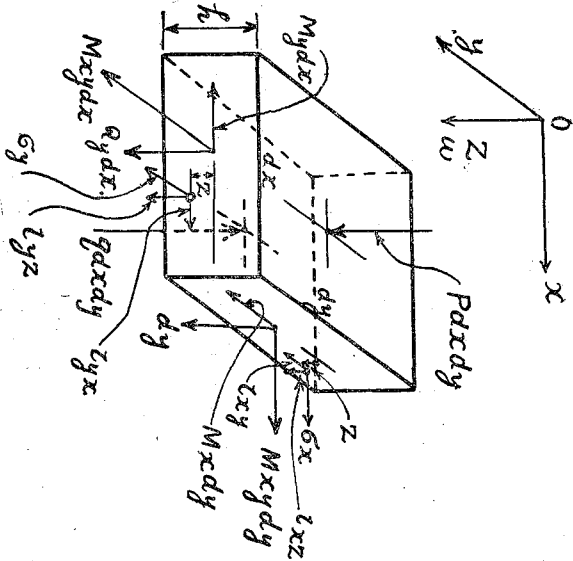
$$G = \frac{E}{2\left(1 + \frac{1}{\nu}\right)} \quad \nu = \text{ポアソン比}$$

然して彎曲力率 M_x , M_y 及び剪断力率 M_{xy} と σ_x , σ_y , τ_{xy} との間には次の関係がある。

$$M_x = \int \sigma_x z dz, \quad M_y = \int \sigma_y z dz, \quad M_{xy} = \int \tau_{xy} z dz \dots\dots\dots (4)$$

(4) 式へ (3) 式を入れて z を $-\frac{h}{2}$ より $\frac{h}{2}$ まで積分すると次の式が得られる。

$$\left. \begin{aligned} M_x &= -N \left(\frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + \nu \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} \right) \\ M_y &= -N \left(\frac{\partial^2 w}{\partial y^2} + \nu \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} \right) \\ M_{xy} &= -(1-\nu) N \frac{\partial^2 w}{\partial x \partial y} \\ N &= \frac{Eh^3}{12(1-\nu^2)} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (5)$$



第二圖

外力は上部と下部より各々 $p \, dx \, dy$ と $q \, dx \, dy$ とが働くために是等の諸力と剪力とは平衡に保たねばならぬ。即ち

$$\left. \begin{aligned} \frac{\partial Q_x}{\partial x} + \frac{\partial Q_y}{\partial y} + p - q = 0 \\ q = c w \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (9)$$

今第二圖に示す如く弾床上の平板の微小部分 dx, dy, h を取つてその外力と内力との平衡状態を考へる。 dx, h, dy, h の二面には M_x, M_y の外に剪力 Q_x と Q_y とが働く。その値は次の如きものである。

$$\left. \begin{aligned} Q_x &= \int \tau_{xz} \, dz \\ Q_y &= \int \tau_{yz} \, dz \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (6)$$

然して彎曲力率と剪力との關係は次式にて示さるゝ。

$$Q_x = \frac{\partial M_x}{\partial x} + \frac{\partial M_{xy}}{\partial y}, \quad Q_y = \frac{\partial M_y}{\partial y} + \frac{\partial M_{xy}}{\partial x} \dots\dots (7)$$

今 (7) 式に (5) 式の關係を入れて整理すると

$$\left. \begin{aligned} Q_x &= -N \frac{\partial w}{\partial x}, \quad Q_y = -N \frac{\partial w}{\partial y} \\ \text{但し } \Delta w &= \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} + \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} \end{aligned} \right\} \dots\dots (8)$$

(9) 式に (8) 式を入れると次式を得る。

$$\frac{\partial^4 w}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 w}{\partial x^2 \partial y^2} + \frac{\partial^4 w}{\partial y^4} + \frac{c}{N} w = \frac{P}{N} \dots\dots\dots (10)$$

この p なる荷重が x, y の函数にて表はし得れば (10) 式は次の如くなり、これが求める彈床上の平板の一般方程式である。

$$\left. \begin{aligned} \frac{\partial^4 w}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 w}{\partial x^2 \partial y^2} + \frac{\partial^4 w}{\partial y^4} + \lambda^4 w &= p(x, y) \\ \lambda^4 &= \frac{c}{N} \\ \Delta^2 w + \lambda^4 w &= p(x, y) \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (11)$$

コンクリート平板に之等の式を適用するときには、コンクリートの v の値は殆んど零と見ても差支へないから (5) 式は次の如く簡單なる式となる。

$$\left. \begin{aligned} M_x &= -N \frac{\partial^2 w}{\partial x^2} \\ M_y &= -N \frac{\partial^2 w}{\partial y^2} \\ M_{xy} &= -N \frac{\partial^2 w}{\partial x \partial y} \\ N &= \frac{Eh^3}{12} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (12)$$

(11) 式に於て平板下部の反力が無いときは $q = 0$ なるを以て次の如くなる。

$$\left. \begin{aligned} \Delta u &= p(x, y) \\ \text{即ち} \quad \frac{\partial^4 u}{\partial x^4} + 2 \frac{\partial^4 u}{\partial x^2 \partial y^2} + \frac{\partial^4 u}{\partial y^4} &= p(x, y) \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (13)$$

(13) 式は四邊にて支持されたる平板の一般の方程式である。この (13) 式の解法は相當多くの人々に依つて求められてゐる。有位の参考書として次のものが挙げらるゝ。Love の Theory of elasticity. Nishai の Elastische Platten. Marcus の Die Theorie elastischer Gewebe und ihre Anwendung auf die Berechnung biegsamer Platten. と Föppl の Dring und Zwang などが皆立派な本であるし日本でも普通の平板の問題は近頃多く取扱はれる傾向になつて来る。故中山口博士の温度の變化に依る平板の問題、稲田博士の静水壓力を受ける平板の解法、井口博士の短形板の一般解法などは歸々たるものであるが彈床上の平板の解決は餘り見當らない。たゞ彈床上の圓板の等稜荷重の場合の解法として Ferd. Schleicher 著 Kreisplatten auf elastischer Unterlage. 1926. の本を見る丈である。これは圓板であるのでベツセル函数を用いて解いてある。

かくの如く彈床上の平板の一般解法としては少ないのであるがこれも矢張り普通の平板と同様に色々の解法がある筈である。(未完)

(追記) 二月號に石川某氏の御尋ねがあるが拙稿が完結してから御答したいと思つてゐる。